

宍道湖・中海水産振興対策検討調査事業

- 未利用資源の有効利用 -

森脇晋平・常盤 保・大北晋也

目的

宍道湖・中海で有効に漁獲・利用されていない魚種（コノシロやサツパなど）の有効活用を図ることを目的として宍道湖・中海における魚類の資源量の調査をおこない、あわせて流通加工の研究開発をおこなう。

方法

- (1) 農林水産統計年報を整理し、漁獲量の長期的な変動パターンを明らかにする。
- (2) 魚群探知機の映像から魚群量の季節的な変動を調べた。

調査結果

1980年代後半から90年代の漁獲量変動に注目すると

- (1) 刺網漁業では減少から横ばい傾向
- (2) 小型定置網漁業では減少傾向
- (3) 延縄漁業では増加傾向

が、それぞれみられた。このような漁業種類による漁獲量変動パターンの差は魚種構成の変化に対応した結果と推測できる。

魚群探知機の反応からみた魚群量の季節変動は10～11月にピークがみられ、この時期に魚群密度（主として浮魚類）が高まると判断できる。

今後の課題

- (1) 魚種別漁獲量の変動傾向の推定
- (2) 魚群の移出入の定量化
- (3) 流通加工の研究開発